



五月十三日

五年

文部省へ達

五月十三日

十四

別紙小學教師教導場建立ノ儀伺ノ通御決議相成候處
覺舎新築ノ儀ハ先相見合マ在來ノ邸宅等へ修繕ヲ加
へ當分相濟セ候積ヲ以相應ノ場所取調更ニ可被伺出
候也

文部省伺

五年四月二十日

夫レ人ノ學業初メアルニ非カレハ能ク終リアル鮮
シ故ニ老成ノ練熟ハ少壯ノ研業ニアリ壯盛ノ進達
ハ幼時ノ習學ニ基ク是文明ノ各國小學ノ設盛大隆
壯ナルユヘンニシテ要之スルニ其始メヲ慎ミ終リ
ヲ慮ルユヘンナリ

皇邦從來教育ノ法ナキニアラストイヘ其法ノ不

備ルト其施為ノ不善トニヨリ其弊ヲナスヤ甚タ多シ

夫レ少年腦髓未定物ヲ知り智ヲ開ク宜シク此時ニアルヘシ然ルニ從來ノ風凡人八九歳若クハ十二三歳ヲ過ク之カ父兄タルモノ全ク之レヲ度外ニ置キ之ヲレテ學ニ從事セシムルヲ不知漸ク長スルニ及シテ或ハ之ヲ學フトイヘル素ヨリ之ヲ學フベキノ時ニ學ハサルヲ以テ其基礎己ニ失シ至ル所暫留シ其學遂ニ上達スルコト不能 一弊

其學ハサルモノハ素ヨリ物理ノ何物タルヲ不辨忽然トシテ營生ノ事ヲナストイヘル志行賤劣求ル所亦隨テ之ヲ失シ流落自ラ救フ能ハサルモノ極テ多シニ弊

或ハ之ヲ學ブモノトイヘル多クハ之ヲ寺子屋ナル者ニ委ネ其師匠ナル者ハ大概流落無頼ノ禿人自ラ糊スル能ハサルノモノニシテ素ヨリ教育ノ何物タルヲ不辨其筆算師ト稱シ書讀師ト稱スルモ纒ニ其一端ニ止ルノミ而其教亦淺々タトヒ之ヲ習トイヘル以テ普ク物理ヲ知ルニ足ラズ其不學ルモノト相去ル不遠 三弊

或ハ之レヲ教ルニ其規則ナキヲ以テ子弟ヲ集ムル數十百人朝ヨリ夕ニ至ル聲音囂々唯其囂然之ヲ以テ教學トス亦一般幼學所ノ風ナリ是以其教ヲ受ルモノ終年之ヲ計ルル得ルトコロアル能ハス 四弊
或ハ稀ニ學校ノ設アリテ其公ト云ヒ私ト云フモ其教フル所大概從來ノ風習ニシテ亦成規アルコトナシ

其之ヲ教フルモノ四書也五經也タトヒ勉勵シテヨク之ヲ暗誦ス其今日ニ用アル何ニ有ル是亦其不學モノト相去ル一間五弊

右數ノモノハ則當今一般ノ風習彼ニ不出レハ必ス此ニ入ル之ヲ以テ之ヲ論スレハ教育ノ法ノ如キ抑亦地ヲ拂テ之ナキト謂モ可也唯皇國人生資質ノ美ナルヲ以テ幸ニシテ野蠻ノ風ヲ免ルノミ之ヲ以テ海外ト相並馳セントス千鞭万策不可不加宜シク急ニ良法ヲ求メテ以テ教育ノ道ヲレテ大ニ世ニ普及ナラシメスンハアル可ラス今竊ニ之ヲ考フルニ教育ノ道ハ其本必ス小學ニ成ル而レテ小學ノ教ノ能ク完全ナルヲ得ルユヘンノモノ小學教則ノ能ク齊整スルニアリ小學教則ノヨク齊整スルユヘンノ

モノ小學教師ノヨク教則ヲ維持シテ之ヲ教ユルノ正シキヲ得レバナリ夫レ師ノ生徒ニ於ル形ト影トノ如シ形不直シテ影直ナランヲ求ム得ベカラス各國己ニ師表校ノ設テアリ宜シク先ツ急ニ師表學校ヲ建立ス可シ其施為ノ順序如左

一 西洋人一人ヲ雇入レ之ヲ教師トス 此洋人當時南校ニアリ南校ニ其代人ヲ入ルヘシ

一 生徒二十四人ヲ入レ之ヲ助教トスヘシ

一 同九人ヲ入レ之ヲ生徒トスヘシ助教ト云ヒ生徒ト云ヒ其實ハ皆生徒ナリ

一 教師ト生徒ノ間通辨一人ヲ置ク

一 教師二十四人ノ助教ニ教授スルニ一切西洋小學ノ規則ヲ以テス但シ通辨ニテ之ヲ解譯ス

一 右九十人ノ生徒ヲ六組ニ分テ其一組ヲ助教四人ニテ受持チ教師ヨリ傳習スル所ノ規則ニヨリ彼ノレツテハ我イロハニ直シ彼ノオールトハ易フルニ我單語ヲ以テシ其外彼ノ口授講義ノ法ヲ始メトシテ一切彼ノ成規ニヨリテ我レノ教則ヲ斟酌シ以テ之ヲ其生徒ニ授ク小學校用フヘキ書籍器械一切當時未利堅ニ注文ス來著セハ其採ルヘキハ又譯シ更ニ加フヘキノ書類ハ之ヲ加ヘ以テ小學教授ノ具ヲソナフベシ

一 右助教ヨリ生徒ニ授クルノ間教師之ヲ通覽シ其不規則ナル所アレハ時々改正ヲ加フ之ヲ要スルニ助教直チニ教師ヨリ傳習ヲ受クルハ彼レノ成規ヲ求ムル也助教生徒ニ授クルハ彼ノ成規ニヨリテ我ニ寫スモノ也但此間我小學ノ教法一種良善ナルモノヲ磨シ出スヘシ之ヲ以テ小學教師ヲ植成シ以テ

四方ニ分派シ順漸興張ナラシムルヲ要ス其教授ノ目大略如左

- 一 綴字
- 一 單語
- 一 讀本
- 一 文法
- 一 養生
- 一 理學
- 一 幾何學
- 一 化學
- 一 墨画
- 一 習字
- 一 會話
- 一 修身
- 一 算術
- 一 地學
- 一 史學
- 一 博物
- 一 生理

右諸件ノ儀今般奉伺候學制中畧其意ヲ陳述ス未タ其允可無之候ヘ尺前文申述候通教育ノ道ハ何分至

急ノ務ニシテ此儘御差置可相成候儀ニ有之間敷左
候テ至急手ヲ下シ候ハテハ一日ノ明開ヲ妨ケ可申
候ニ付先不取敢此段奉伺候也 四月廿二日
指令 五年五月十三日
伺ノ通

文部省伺

此程御掛合有之候小學教場築造其外ノ入費別紙ノ
通取調差進候間可然御評議相成候様致度候右ハ早
速可差出答ニ候處可相成ハ御入用薄ニ取計候様築
造ノ切組ニ於テハ數度論議ヲ加テ旁遲延ニ及テ候
段宜御含有之度此段申入候也 五年四月晦日
師表學校承建ニ付入費凡見積

一 金六千五百兩 但外用共 西洋造練化石ニテ七十五坪余
新築入用

- 一 洋銀 二百枚ヨリ 教師一人
- 一 金 五十兩ヨリ 通辨一人
- 一 金 二百四十兩 助教廿四人 但一人
- 一 金 七百二十兩 生徒九十人 但一人
- 一 金 十六兩 生徒掛二人 但一人
- 一 金 十兩 至門二人 但一人
- 一 金 六兩 小使二人 但一人
- 一 金 五十兩 雜費 但一人

教師通辨給

一 金千四十八兩 但毎月ノ入費

右校ニ附属スル器械書籍ノ入費ハ追テ可申上候

大藏省答議 五年五月七日

此程參 朝ノ節御沙汰有之候文部省申立小學教師

教導場其他入費ノ儀ニ付伺書相添御達ノ趣致承知候右教師始雜費ニ至ル迄月々費用教師通辨給料ヲ除キ候通計千四十八兩入費渡方書面ノ通承許可申候ハ尺教場西洋造練化石ニテ新築ノ儀篤ト考量仕候處此程司法省ヨリ申立候裁判所新築ノ儀ニ付テモ夫々見込申上候次第モ有之右小學校ニ於テモ詰リ同様ノ事ト奉存候間追テ完備ノ營築相成候トモ即今ノ處相見合々先在末ノ邸宅又ハ長屋向束集メ建築致シ候様御再議有之度存候依テ別紙返進此段申上候也 五月七日

追テ先項文部省ヨリ建議相成候全國ノ學制御設立諸費舎建創ニ付文部省定額金御制定ノ儀ハ可相成ハ井上大輔歸京迄決裁ノ御沙汰暫時御見合

五月御座候様仕度奉願候也

十五 小學教導校入校生徒ノ内助教學費ノ給ス

文部省届 五年五月旨

今般相伺候小學教官教導校ハ承立相成候生徒ノ内助教ト名付候者一人ニ付一月十兩其餘ハ一人ニ付一月八兩宛支給仕候積リ申上置候處方今公費ノ生徒ハ従前ノ分ト雖モ大ニ減畧相成候様處分ニ及居候時節ニ付新規ノ生徒ハ別テ公費支給等不相成譯ニ有之都テ私費ノ生徒ヲ以テ承設度儀ニハ候ハ尺凡ソ自費ヲ以テ修學仕候程ノ者ハ始終小學ノ教官ニ安ンジ不申ハ勿論唯公命之隨ノ場合ニ於テ致從事候儀ハ絶テ無之儀ニ候處右承立ノ生徒ハ專ラ小學教官ヲ以テ任トシ全ク官ノ使用ニ供シ候者ニ付

自ラ其費用ヲ出シ亦此羈絆ヲ受ケレメ候事ハ逆モ
不相成儀ニ有之且又此生徒ハ既ニ和漢ノ學モ有之
又洋學ヲモ聊心得居候者等相撰ミ今日ヨリ教官ノ
模範中ニ於テ鎔鑄致候事ニテ自ラ通例ノ生徒ト一
様ノ者ニハ無之候間何分公費ヲ不賜候ハテハ難被
行次第ニ自右邊御評議ノ趣モ可有之候ヘ氏此段一
應申上置候也

二
此
類
也

五月十五日

十六
小學教官教導場ヲ師範學校ト稱シ志願ノ者入校ヲ許
ス

文部省申牒 五年五月十四日

此程相伺候小學教官教導場ノ儀自今師範學校ト相
唱生徒取立方ニ付テハ別紙ノ通り刊行ノ上各府縣
、市町村上 候間此段御聞届相成度候也 五月十四日
指令 五年五月十五日
信ノ通 五月十五日

文部省布達 府縣

今般於東京師範學校ヲ開キ候師範學校ハ小學ノ師
範タルヘキモノヲ教導スル所ナリ全躰人ノ學問ハ
身ヲ保ツノ基礎ニシテ順序階級ヲ誤ラス才能技藝
ヲ成長スルニアリ仍テ益々小學ヲ開キ人々ヲシテ